

喜多川歌麿筆、赤松金鶏撰

百千鳥狂歌合

(JLC 2019 年新年会「初笑いショート・スピーチ」付録)

<p>鶯 則有遊</p> <p>のきちかく ほとうとつぐる 一声は 我恋中を みたか うぐひす</p>	<p>山雀 紀定丸</p> <p>君は床をもぬけのくるみ わればかり ちからおとしの恋の山がら</p>	<p>雲雀 錢屋金埒</p> <p>大空に おもひあがれる ひばりさへ ゆふべは落る ならひこそ あれ</p>	<p>鶉 つぶり光</p> <p>うづらふの まだらくと くどけども 栗の初穂の おちかぬる君</p>
<p>木つとき 篠野玉涌</p> <p>名にたちて恋にや朽ん 木つときにつきくだかる 人の口ばし</p>	<p>まめまはし 朱楽菅江</p> <p>忍ぶのにいらざる口の まめまはし つるさえづりて 名やもらすらむ</p>	<p>雉 桐一葉</p> <p>あふときはけんもほろゝな返事して いひ出ん事のはねもすぼめり</p>	<p>燕 酒月米人</p> <p>つばめにも身をかへてまし 下紐をときはになかく ねんと 思へば</p>

<p>ゑなが 籬菊丸 人の手にかはれよとて ちぎらじな たとへゑながの ゑにつきる とも</p>	<p>めじろ 田原船積 口舌して おし出されし みつぶとん つらきめじろの 鳥はものかはし</p>	<p>山鳥 最中月磨 山鳥のほろくなみだ せきわびぬ いく夜かゞみの かげもみせねば</p>	<p>鶴鶴 万徳斎 あふた夜にむねの おどりはなほり ても いまに人目の せきれいは うし</p>
<p>鶴鶴 唐衣橘洲 大鵬のたかき心の 君ゆへにうき みそさゝる よりもつかれず</p>	<p>鳴 千客万来 ねもやらで 後生大事に まつ夜半の さびしさ まさる 鳴のかんきん</p>	<p>鶏 宿屋飯盛 かけ香の丁子の口は とづれども まかせぬ けさの鶏の舌</p>	<p>頬白 芦辺田鶴丸 色ふくむ きみがゑくぼの ほう白に さしよる恋の とりもちも がな</p>
<p>木兎 市仲住 鳥とゝもになきつ わらいつくどく身を それぞときかぬ 君がみづく</p>	<p>鸞 笹葉鈴成 うそとよぶ 鳥さへよるは ぬるものを とまり木のなき 君の そらごと</p>	<p>鵜 唐来三和 鳥の名の うき名かこたん川波に ぱつとはなしの たねとなりなば</p>	<p>鷺 鹿都部真顔 あふてのち うき名をふるゝ からすより たゞ口さきの へらさぎぞ うき</p>

<p>四十雀 宝野敦丸 四十からと君に見えてや いたゞきの 色にはちよと つらきご返事</p>	<p>こまどり 麓近道 こまどりの 名のみこまなる 思ひかな 恋の重荷を やるせなき身</p>	<p>(雀) 綾織主 さだめなき君が心のむら雀 つゐにうき名の ぱつと たつらん</p>	<p>鳩 園胡蝶 鳩の杖 つくまで色は かはらじな たがひに年のまめは くふとも</p>
<p>かし鳥 大屋裏住 かし鳥の つたなき声が くどけども なけども君の 耳にとめぬは</p>	<p>鴟鴞 寝言軒美憐 ふくろうのめは もちながら いかなれば よるはくれども ひるみえぬ君</p>	<p>鴨 豊年雪丸 つけ文の つかひものには 地をはしる 恋のやつこも かものとりもち</p>	<p>翡翠 三陀羅法師 君とわが のちのよかけて 蓮の葉に いひかはせみの はねをならべん</p>
<p>鷹 赤松金鷄 鷹ならば うき名の外に ぱつとたつ 小鳥もをのが ゑにしなるべき</p>	<p>百舌 百喜斎 ひからびし 思ひは百舌の 草ぐきの つつかけものに なるぞ くやしき</p>		<p>参考 菊池庸介「編」 歌麿 『画本虫撰』 『百千鳥狂歌合』 『潮干のつと』 講談社選書メチエ (二〇一八年)</p>

